

地区別活動計画作成例(棚田を核とした棚田地域振興)

市全体計画における区分	地区別活動計画の内容		現状(R1)	目標(R6)
棚田を観光資源とした地域振興	地域資源の活用	春日山古道巡りコースを整備し、維持管理を行う。	古道巡りコース整備	古道巡りコース維持管理
棚田を観光資源とした地域振興	地域資源の活用	地域内組織と連携し春日山古道巡りコースを活用した棚田を巡る歴史散策ツアーを毎年3回開催する。	3回/年	3回/年
棚田を観光資源とした地域振興	地域資源の活用	春日山古道散策マップとスタンプ帳の活用・ガイドの育成・運用を行う。	マップ・スタンプ帳の活用	ガイドの運用
都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大による地域振興	地域資源の活用	捕獲したジビエを活用し地域の食材として食する機会を提供する。	イノシシの肉を食う会参加者30人/回	イノシシの肉を食う会参加者50人/回以上
都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大による地域振興	学校行事との連携	農業体験(田植、草刈、稲刈、脱穀)の受入れを継続する。	小学生の農業体験受入れ	小学生の農業体験受入れ
集落機能の維持	集落機能の維持	毎年秋に収穫祭を開催し、地域内交流を推進する。	秋に収穫祭を実施	秋に収穫祭を実施
集落機能の維持	集落機能の維持	高齢者等への生活支援として、買物支援の回数を増やす。	買物支援2回/年	買物支援4回/年
集落機能の維持	集落機能の維持	地域内交流の推進のため、お茶飲み交流の場の開設回数を増やす。	お茶飲み13回/年	お茶飲み17回/年
集落機能の維持	集落機能の維持	集落活性化に向けた人材の確保・育成①(買物支援ボランティアを2名確保する)	買物支援ボランティア1人	買物支援ボランティア2人
集落機能の維持	集落機能の維持	集落活性化に向けた人材の確保・育成②(お茶飲み交流ボランティアを3名確保する)	お茶飲み交流ボランティア1人	お茶飲み交流ボランティア3人
伝統文化の継承	都市との交流	農村レストランの売上を増加させる。	売上130万円	売上250万円以上
都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大による地域振興	都市との交流	農泊開業準備を進め、農泊開始後、令和6年度には年間20人以上受け入れる。	農泊0人/年	農泊20人/年以上
集落機能の維持	集落機能の維持	除雪支援を実施する。		3件以上
集落機能の維持	集落機能の維持	花壇整備・プランター配置による集落美化運動を推進する。		花苗150本植栽
集落機能の維持	集落機能の維持	CO2削減による環境改善のため、累計21基の集落内防犯灯をLED化する。		LED化計21基
集落機能の維持	集落機能の維持	集落活動の担い手が少なくなる中で、主体的に関わる女性の力が必要である。これまで主に男性だけが出席していた総会や毎月の常会等・共同活動に女性が積極的に参加する。	—	総会等に3回/年以上女性が出席
集落機能の維持	集落機能の維持	集落在住や集落出身の若年層へ事業(棚田のきらめき)協力依頼	協力者5人	協力者10人
棚田を観光資源とした地域振興	地域観光の推進	棚田にLEDを灯す「棚田のきらめき」を開催して山間地の現状発信と交流人口の創造を目指す。	—	棚田のきらめき開催
棚田を観光資源とした地域振興	地域観光の推進	休憩所「棚田カフェ」(棚田のきらめきの観賞場所・木造約15㎡)を開設し、飲み物を提供する。	—	休憩所開設
担い手の確保	集落機能の維持	各種求人募集フェアに参加し黒川・黒岩地区への現地見学・体験の参加者を継続募集する。	現地見学・体験参加者3人	毎年度1人
棚田を観光資源とした地域振興	都市との交流	子どもたちをはじめ、イベント参加者に中山間地域の農業や食料への理解を深めてもらい、棚田のファンを増やす取組みとして、棚田米・酒造りに関するイベントを継続実施する。	イベント実施	イベント実施
集落機能の維持	集落機能維持	高齢者等への生活支援のため、移動手段を持たない地域住民の送迎支援を支えあう仕組みを維持していく。	26回	26回
都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大による地域振興	都市との交流	地域情報を発信する「川谷もより通信」(年4回発行)の加入者を令和6年度までにそれぞれ5%増やすことで、関係人口の拡大を図る。	通信168戸 関係人口168人	177戸 関係人口177人
集落機能の維持	集落機能の維持	移住定住の促進のため、移住促進イベント等への参加、地元で移住者受入れ企画を行う。	イベント参加0回、受入れ企画の計画実施3回	イベント参加1回、受入れ企画の計画実施2回
集落機能の維持	集落機能の維持	移住受入対策として、空き家の維持管理を行い、空き家、古民家利活用を推進する。	冬期外:除草作業等2回 冬期間:家回り等の除雪1回	冬期外:除草作業等2回 冬期間:家回り等の除雪2回
集落機能の維持	地域連携の強化	地域マネジメント組織の強化により、当事業を円滑に運用するため組織の機能を維持していく。	川谷もより協議会	川谷もよりの将来をみんなで考える会
都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大による地域振興	都市との交流	都市住民との交流事業を開催する。	4回/年	4回/年
棚田を観光資源とした地域振興	地域観光の推進	地域内資源の発見と発信を行う。	—	観光資源の整備
棚田を観光資源とした地域振興	地域観光の推進	観光イベントの開催、桜マップの作成、案内看板等の整備	しだれ桜まつり開催	しだれ桜まつり開催 桜マップの作成 案内看板等整備
集落機能の維持	高齢者等への生活支援	高齢者世帯の除排雪を支援する「星のふるさと支え隊」を、各集落から募り隊員を増加させる。	19人	24人
集落機能の維持	集落活性化に向けた人勢の確保・育成	多様な担い手確保のため、女性グループと若者グループを育成し、新たな地域活性化の体制の確保を図る。	0人	20人
都市農村交流を通じた関係人口の創出・拡大による地域振興	地域資源の有効活用、関係人口の増加	地域のシンボルである坊ヶ池を核として、星のふるさと館など周辺の地域資源を活用し、地域住民及び来訪者が集う場を提供する。	推進会議 実践グループ70人 主催イベント9回	推進会議設置5~10人 実践グループ10人 主催イベント3回/年
集落機能の維持	集落機能の維持	「お出かけ会」を実施し、高齢者等の生活支援や外出機会の創出を図る。	1回/月	2回/月(夏場) その他1回/月
集落機能の維持	集落機能の維持	住宅に隣接しているために、拡張も区画整理もできずに荒廃している農地で景観作物植栽活動を展開する。	—	3箇所で開催
棚田を観光資源とした地域振興	都市との交流	地域の良さや農産物・特産物をアピールするため、地区のホームページとSNSを立ち上げて運営する。	—	ホームページ・SNS運営
棚田を観光資源とした地域振興	地域観光の推進	農作業を中心とした農村田舎体験イベントを毎年開催する。	—	農村田舎体験イベント開催